認定介護福祉士養成研修科目「認知症のある人への生活支援・連携」事前課題 No4

氏名　臼井　啓介

ワークシート 2）事前課題①

よりよい交流が出来たと思ったり、優れたコミュニケーションであると思ったりしたプロセスレコード

【登場人物】どのような人か？

登場人物①（イニシャル　O　）氏　　性別；（　男性　）　年齢；（　70　）歳代

（職員であれば、役職・あなたとの関係性；利用者）

混合型認知症（アルツハイマー、アルコール性）

性格は真面目で几帳面、他者へ気遣う穏やかな性格だが頑固な一面もある。普段は無口で自ら交流することはなく、集団を避け一人席で静かに過ごしている。飲酒時に暴言・暴力などでトラブルになったこともある。

登場人物②（イニシャル　T　）氏　　性別；（　女性　）　年齢；（　30）歳代

（職員、送迎時の対応）

どのような場面か？大まかな状況（いつ・どこでのやりとり）

迎え時に O 氏のズボンが濡れている状態で尿臭もすることに気付いた送迎担当職員が「ズボン濡れていますよ。匂いもするし着替えしてから行きましょうか」と声かけするも「どこも濡れてないじゃないか」「何でもない、大丈夫」「自分のことは自分で分かる」と拒み、職員はそれ以上声かけできずそのまま来所される。来所後送迎職員より更衣拒否がったと申し送りがあり対応にあたる。

＊尿意あり本人のタイミングで排泄しているが、利用中時折的を外しズボンを濡らすことや間に合わず失禁する場面が見られる。その際失禁してズボンが濡れた状態に本人も気付いているが「家で着替えるからいい」と更衣拒否が見られている。

ワークシート 3)事前課題①

（ O ）氏の様子・言動	「私」の感情・解釈・判断	「私」の言動・行動
	①女性職員での対応や他利用者の前でのやりとりとのことで羞恥心から拒否に繋がったと考える。また送迎時に人を待たせたくないとの思いがあったのではと予測する。	②羞恥心に配慮できるよう来所後本人が1人自席で過ごしている所へ声かけする。「O さんおはようございます。今日もいい天気ですね。花もきれいに咲いてますよ」自席に座っている O 氏の側へ椅子に腰掛け声をかける。
③声かけに対し、歯に噛んだ笑顔で会釈する。返事はない。	④挨拶や日常会話を通して落ち着いて会話ができる状況にあるか確認する。返答はないが目線が合うことで聞く姿勢であると判断する。	⑤「外は暑かったけど汗かいてないですか」と体に触れながらズボンに視線を落とし「あれ、なんかここ汚れてませんか」と汚染部分を確認しながら声かけする。
⑥「そうだな、濡れてるな」「何でかな」と汚染部分に触れる。	⑦視覚的に汚染している場所を示しズボンの汚れを認識しているか確認する。更衣交換に対しての反応を伺う。	⑧「O さんいつも着替え鞄に入れてますよね。濡れたままでは風邪ひきますよ。着替えしましょうか。」声かけしながら本人の鞄からズボンを取り出し本人に提示する。
⑨「別にいいよ。これくらい」 職員から視線を逸らす。 表情に変化見られない	⑩羞恥心が強く影響し、着替えに対して否定的な考えが伺える。声のトーンや表情に気をつけて自尊心を傷つけないような態度で正直に伝えてみてはどうだろう。	⑪「O さんこのままだと匂いも強くなりしますし、誰かに指摘されるかもしれません。O さんが誰かに非難されたら私が傷ついてしまいます。誰も気付いてないうちに着替えてきませんか。今なら誰もいませんのでいいタイミングですよ」耳元で小さい声で問いかける。
⑬「そうか、どこでするか」と席を立ち着替えに応じる。	⑫本人の他者へ気遣う性格から、職員のために着替えをしてほしいことを伝えることで動機付けになるのではと考える。	⑭「良かった、ありがとうございます。では案内しましょうね。」

よりよい交流が出来たと思ったり、優れたコミュニケーションであると思ったりしたポイントは何か、考えられる理由。

〇会話する際、本人と視線が合うよう椅子に腰掛け適度な距離感で表情（笑顔）や声の大きさ・口調が不快な思いならないよう注意を払い、会話に注意が向くように意識した。
〇同性で対応すること、他者がいない環境で介入することにより羞恥心に配慮した。
〇本人のプライドに配慮しながら他者へ気遣う性格を考慮し関わり方を工夫した。
〇普段より O 氏に関心を示し挨拶や日常会話を通し積極的に関わり「この人なら任せていい」と安心感を持ってもらえるよう、関係性の構築に努めた。

氏名　　臼井　啓介

ワークシート 4）事前課題②

コミュニケーションがうまくいかなかったり（嫌な思いをしたり）、そのコミュニケーションによってその後の対応が困難になったりしたプロセスレコード

【登場人物】どのような人か？

登場人物①（イニシャル　K　　）氏　　性別；（　女性　）　年齢；（　　80）歳代

（職員であれば、役職・あなたとの関係性；利用者）

アルツハイマー型認知症（重度認知症）、記憶障害、見当識障害が著明。

性格は頑固でこだわりが強い。

挨拶や日常会話の理解はある程度可能だが会話の返答を繰り返す中、次第に本人の過去の話題へ話しを切り替えて取り繕い興奮しだすこともある。

どのような場面か？大まかな状況（いつ・どこでのやりとり）

デイケアの送り車内にて自宅に到着するも降車拒否が見られる。職員は何度も声かけを繰り返し降車を促すも拒否を示す、そのやりとりを見ていた同乗他利用者が怒り出し罵声を浴びる。職員はその状況に焦りを感じ半ば強引に K さんを降車させる。ここ最近自宅に送るも降車拒否が見られるようになっている状況が続いていた。

ワークシート 5）事前課題②

（　K　）氏の様子・言動	「私」の感情・解釈・判断	「私」の言動・行動
②「あんた降りなさい。私は行きません」と拒否を示し表情硬い。	③見当識障害により自宅へ到着したことが理解できていない様子。自宅であることを理解できるよう声かけの工夫が必要であると考える。	①自宅へ到着し車の扉を開けながら「K さんお待たせしました。到着しましたよ。降りましょうか」と手招きする。
⑤表情は硬いまま目線をあわせず返答しない。	⑥ジェスチャーを交えても理解を得られない。目線も合わせず職員の介入自体を拒んでいる状態と考える。K 氏と会話できる環境にする必要がある。	④「ここは K さんの家ですよ。ほら見て」と自宅を指差す。本人と離れた扉付近から話しかける。
⑧「何でよ！勝手に行きなさいよ」K 氏の体がのけぞり、職員の手を叩く。表情がさらに強張る。	⑨本人へ近づいてゆっくり大きな声で声かけしたことにより威圧的態度に感じ、より不安感を感じさせてしまったのではないか。	⑦「車はここで終点なんですよ。私も降りるんですが一緒に行きませんか」本人へ近づいて聞こえやすいように大きな声でゆっくり説明する。
⑪車両に同乗していた他男性利用者より「自分の家も分からないのか！早く降りれ！」と罵声を浴び非難される。K 氏は「うるさい」と言い返しより興奮状態となる。	⑫本人へうまく関われない中、同乗者にも影響しつつあり、焦りが強くなった。	⑩対応を考えながら沈黙が続く。
⑭「やめなさい」と嫌がり表情がさらに強張るが降車する。	⑮無理やり対応する形となり申し訳ない感情になる。	⑬これ以上時間かけられない、無理にでも降りてもらうしかない。「K さんすいません。降りましょうね」と伝えながら腕を引っ張り半ば強引に降車してもらう。

コミュニケーションがうまくいかなかったり、そのコミュニケーションで対応が困難になったりしたポイントは何か、考えられる理由。

〇記憶障害や見当識障害から自宅が分からなくなっており、不安感が強い状態にあったと考える、その心理状態の中焦らせたり責め立てるように声かけすることでより不安な気持ちが高まったのではと考える。表情から心理状態を読み取り安心できる声かけや楽しい雰囲気を作る態度を示すことで職員の声かけが危険じゃないことを感じてもらえるよう配慮する必要があったと考える。